３つのキーワードで知る

森田 曠平（もりた こうへい）(1916 ～ 1994)

《夏》1984 年

１９１６年	京都府に生まれる。 幼い頃から祖母に謡（うたい）を習うなど、日本の伝統芸能に親しむ。
１９３２年（16 才）	京都岡崎の関西美術院に通い、石膏デッサンと油彩画を学ぶ。
１９３５年（19 才）	京都市立絵画専門学校への入学を目指すが、体調が悪化し、進学を断念。
１９４０年（24 才）	病気が快方へ向かい、日本美術院同人の小林柯白（かはく）に師事し、日本画を学ぶ。
１９４３年（27 才）	第 30 回院展で初入選。
１９４４年（28 才）	柯白の死後、日本美術院同人安田靫彦（ゆきひこ）に師事。神奈川であった安田の研究会に月１度京都から参加する。
１９４８年（32 才）	神奈川県小田原市に転居。
１９５６年（40 才）	多摩美術大学日本画科助教授に就任。
１９６１年（45 才）	第 46 回院展で奨励賞（白寿賞）を受賞。
１９６５年（49 才）	第 50 回院展で日本美術院賞を受賞。
１９６８年（52 才）	第 53 回院展で再び日本美術院賞を受賞、日本美術院同人となる。その後も院展に出品を続け受賞を重ねる。
１９９２年（76 才）	山種美術館（東京）で「森田曠平―作品と素描―」を開催。
１９９４年（78 才）	12 月、心不全のため川崎市の病院にて死去。

京都

京都に生まれ育った森田は、子どもの頃から京都の古い街並みを見て、祖母と一緒に謡や能に親しんできました。京都の風景を描くようになったのは神奈川県に移住してからのことです。その理由を森田は、「京都への郷愁がこうした作品を私に描かせた」と言っています。その言葉通り、森田が描く京都はどこか懐かしさを感じさせるものとなっています。

二人の師

森田は始め京都で日本美術院同人の小林柯白（かはく）に師事します。小林の下で風景画や、風俗画の研究を進めますが、小林が早逝したため、その後は小林の師であった安田靫彦（ゆきひこ）に師事します。やがて安田の歴史画に感銘を受け、森田は古典文学や歴史風俗に取材した格調高い物語絵の世界を描くようになりました。

版画

主に日本画を描いていた森田は、60 才近くなってから版画を始めます。その理由を森田は「好奇心が強く、絵のことは何でも試みようと思っていた。」と話しています。旺盛な探究心でリトグラフやエッチングなど様々な技法を試み、製版や刷りにも参加して、日本画とは異なる色彩や表現の作品を作り上げました。本展では展示替えを含め８点を紹介しますが、どれも豊かな色彩と細かな線で表現されています。

参考文献
・『喜寿記念　森田曠平展』図録　大丸ミュージアム他　1993 年
・『森田曠平展』図録　横浜美術館　1998 年
・森田曠平著　尚文社編『森田曠平全版画集　女人幻想』平凡社　1984 年